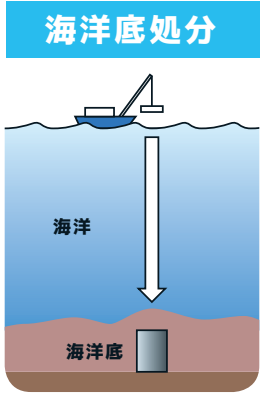
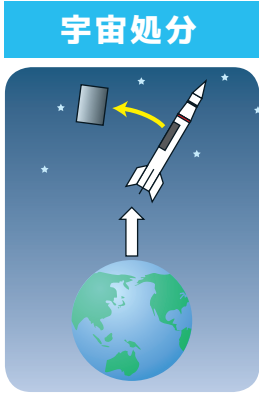
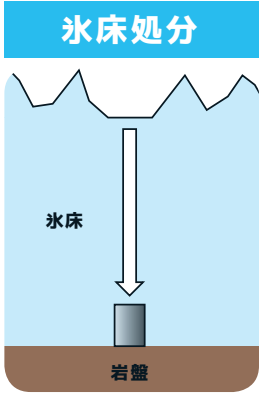
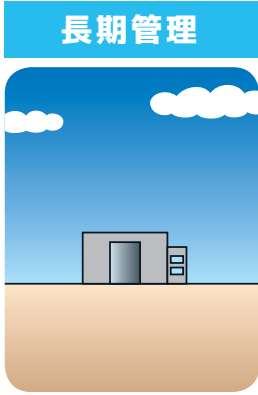
 <p>地層処分</p>	 <p>海洋底処分</p>	 <p>宇宙処分</p>	 <p>氷床処分</p>	 <p>長期管理</p>
安全性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活環境に影響はない △ 生活圏の地下に処分する可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活環境に影響はない △ 海洋底の特性が十分に把握されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高レベル放射性廃棄物が地球上に存在しなくなる △ 打ち上げ失敗によるリスクが大きい 	<ul style="list-style-type: none"> △ 氷床の特性が十分に把握しきれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目に見える形で管理するので安心感がある △ 天災などの影響を受ける △ 人による管理を長期間継続できないかもしれない
コスト	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一度建設すれば、維持管理が必要ない △ 処分場の調査・建設にコストがかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理コストがかからない △ 輸送、処分時にコストがかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理コストがかからない △ 打ち上げに膨大なコストがかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理コストがかからない △ 輸送や定着までにコストがかかる 	<ul style="list-style-type: none"> △ 施設の維持管理をし続けることでコストが長期的にかかる
環境負荷	<ul style="list-style-type: none"> △ 輸送用の専用道路や処分施設の新規建設により環境に影響を及ぼす 	<ul style="list-style-type: none"> △ 海底の環境に影響を及ぼす 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球環境への影響がなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> △ 南極の環境に影響を及ぼす 	<ul style="list-style-type: none"> △ 長期的に管理をすることで電力などのエネルギー負荷がかかる
技術 (現在・将来)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の技術でできる △ 地層の構造を完全に把握することが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> △ 深海の状況が把握されていない 	<ul style="list-style-type: none"> △ 宇宙技術を持った国に限定される △ 発射技術の信頼性が十分ではない 	<ul style="list-style-type: none"> △ 氷床の特性解明が不十分である 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在の施設で管理ができる ○ 新しい処分技術が開発されたらすぐに移行できる
雇用創出	<ul style="list-style-type: none"> △ 一度処分したら業務が終わる 	<ul style="list-style-type: none"> △ 一度処分したら業務が終わる 	<ul style="list-style-type: none"> △ 一度処分したら業務が終わる 	<ul style="list-style-type: none"> △ 一度処分したら業務が終わる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の維持管理に人が関わり続ける
監視・回収	<ul style="list-style-type: none"> ○ 監視・回収が可能 	<ul style="list-style-type: none"> △ 監視・回収が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 回収の必要がない 	<ul style="list-style-type: none"> △ 監視・回収が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 常時監視するので、有事の際にすぐに対応できる

安全性

○ 生活環境に影響はない

△ 生活圏の地下に処分する可能性がある

コスト

○ 一度建設すれば、維持管理が必要ない

△ 処分場の調査・建設にコストがかかる

環境負荷

△ 輸送用の専用道路や処分施設の新規建設により環境に影響を及ぼす

技術

○ 日本の技術でできる

△ 地層の構造を完全に把握することが難しい

雇用創出

△ 一度処分したら業務が終わる

監視・回収

○ 監視・回収が可能

安全性

○ 生活環境に影響はない

△ 海洋底の特性が十分に把握されていない

コスト

○ 管理コストがかからない

△ 輸送、処分時にコストがかかる

環境負荷

△ 海底の環境に影響を及ぼす

技術

△ 深海の状況が把握されていない

雇用創出

△ 一度処分したら業務が終わる

監視・回収

△ 監視・回収が困難

安全性

○ 高レベル放射性廃棄物が地球上に存在しなくなる

△ 打ち上げ失敗によるリスクが大きい

コスト

○ 管理コストがかからない

△ 打ち上げに膨大なコストがかかる

環境負荷

○ 地球環境への影響がなくなる

技術

- △ 宇宙技術を持った国に限定される
 - △ 発射技術の信頼性が十分ではない
-

雇用創出

- △ 一度処分したら業務が終わる
-

監視・回収

- 回収の必要がない

安全性

△ 氷床の特性が十分に把握しきれていない

コスト

○ 管理コストがかからない

△ 輸送や定着までにコストがかかる

環境負荷

△ 南極の環境に影響を及ぼす

技術

△ 氷床の特性解明が不十分である

雇用創出

△ 一度処分したら業務が終わる


監視・回収

△ 監視・回収が困難


 目に見える形で管理するので安心感がある

安全性

 天災などの影響を受ける

 人による管理を長期間継続できないかもしれない

コスト

 施設の維持管理をし続けることでコストが長期的にかかる

環境負荷

 長期的に管理をすることで電力などのエネルギー負荷がかかる

技術

- 現在の施設で管理ができる
 - 新しい処分技術が開発されたらすぐに移行できる
-

雇用創出

- 施設の維持管理に人が関わり続ける
-

監視・回収

- 常時監視するので、有事の際にすぐに対応できる